

第6章 地域別に見た 都市づくりの方針

（地域別方針）

- （1）地域別方針の考え方 1 0 2
- （2）「五泉市街地」の地域別方針..... 1 0 3
- （3）「村松市街地」の地域別方針..... 1 0 7
- （4）「農村集落地域」の地域別方針..... 1 1 1

(1) 地域別方針の考え方



1) 戦略別方針と地域別方針の関係

戦略別方針（5章）は、将来の都市づくりの方針全体を5つの戦略（テーマ）の切り口から示したものです。一方で、これからの都市づくりには、5つの戦略を相互に連携させながら投資効率性の高い取組を進めていくとともに、地域特性に応じたきめ細かな対応も求められます。

地域別方針では、「連携」をキーワードに、5つの戦略を連携・パッケージ化して取り組む地域単位の将来像とそれを実現するための施策を描くものです。

<地域別方針の役割>

- ・地域の括りで将来の都市づくり方針を掲げるもの
- ・5つの戦略で掲げた方針を横断的に連携した「先導的な施策・事業」を位置づけるもの
- ・それぞれの地域が特徴を活かし補完しあいながら、互いに恵み合う“互惠”の連携関係を目指すもの

【連携のすがた】

2つの市街地の連携

市街地と農村の連携

隣接都市との連携

2) 対象とする地域

五泉市の都市構造（第3章）を構成する地域のうち、「五泉市街地」と「村松市街地」ならびに「農村集落地域」の3つの地域を対象とします。





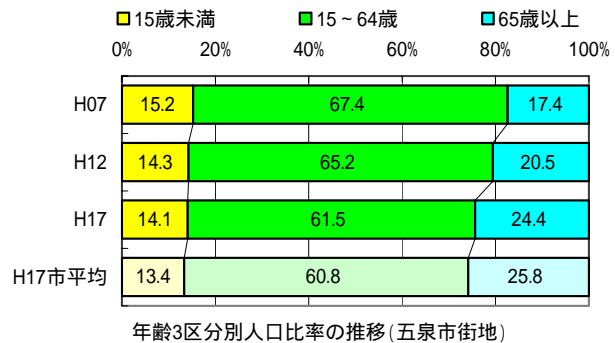
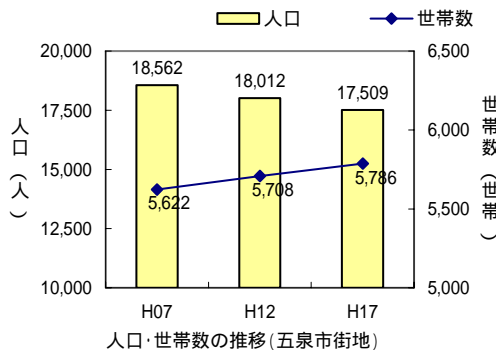
（2）「五泉市街地」の地域別方針

1）地域の位置づけ・特徴

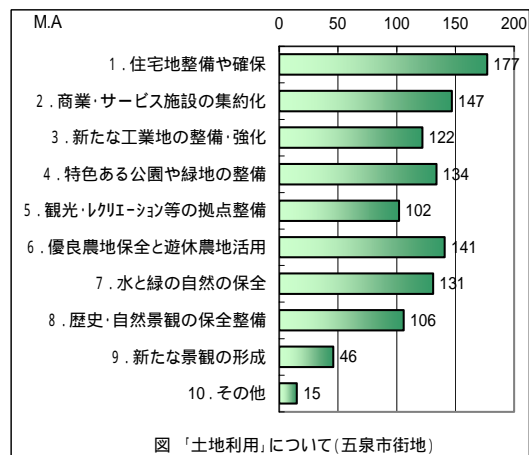
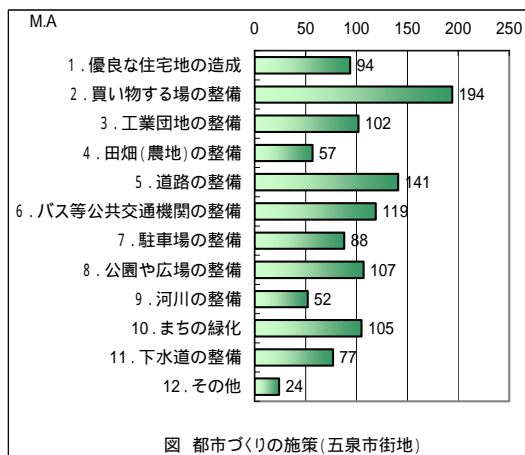
工場や事業所など繊維産業関連施設が市街地内に多数立地
 本町通り商店街など、古くから商業の中心として機能
 J R五泉駅など鉄道やバスなどの公共交通の結節点
 市役所や図書館、病院など、公共公益サービス施設が集積

2）人口特性・住民意識

人口は 17,000 人、世帯あたり約 3.0 人
 10 年間の人口増減率は-5.7%
 65 歳以上の人口割合は 24%
 「買い物」や「道路」へのニーズ



【求められている施策】



3) 当面对応すべき課題

<都市の魅力向上>

絹織物・ニット産業の特徴・資源を活かした街並み景観整備
雇用・居住など若者にとって魅力ある居住環境づくり

<街なかの再生>

商店街を中心とした中心商業の活性化
市街地郊外の商業業務地との適正な土地利用調整
J R 五泉駅前整備及び駅南口の鉄道跡地の利活用

<移動環境の改善>

未整備都市計画道路のあり方の検討
J R 五泉駅の地域公共交通の結節点としての整備・機能強化

4) 地域づくりの視点

- 視点 : 中心市街地活性化の推進
- 視点 : 地域産業や商業の活性化を支援する土地利用の誘導
- 視点 : 鉄道駅を核とした他地域・他都市との移動環境充実

5) 5つの戦略で掲げた方針の地域展開

【五泉市街地の中心市街地活性化推進】

本町通商店街やJ R 五泉駅を含む地区を対象として、まちづくり交付金等を活用した中心市街地の再生に向けた取組の推進（商業基盤施設の整備やイベントの開催、空き店舗の活用等による中心商業の活性化、街なか居住推進など）
市街地郊外での商業施設立地のコントロール

【新たな市街地の計画的な整備】

三本木・太田地区一体における新たな商業業務系土地利用の計画的な誘導

【市街地内道路の計画的な整備】

長期未着手都市計画道路の廃止も視野に入れた計画見直し
市街地外周を迂回する環状道路の計画的な整備（市街地内への通過交通抑制）

【JR五泉駅を核とした都市づくり推進】

JR五泉駅を結節点として、鉄道や路線バス・コミュニティバス等の公共交通ネットワーク強化による利便増進

JR五泉駅南口の鉄道跡地の利活用計画の具体化

【安心して歩ける歩行者空間の整備】

通学路や商店街・公共施設周辺などの交通量が多い道路での、歩行空間整備及びバリアフリー対策

冬期降雪時の除雪を円滑にするための、道路幅員や沿道状況に応じた雪処理対策推進

【緑とうるおいのある街並み形成】

街なかを流れる水路（清流）の活用、住民による緑化活動や美化活動等により水と緑のあふれる美しい環境づくり

【基幹都市軸の機能強化】

村松市街地と直結する主要地方道新津村松線の交通円滑化対策

鉄道跡地を含めた将来的な基幹都市軸のあり方の検討

<今後、先導的に取り組む施策・事業>

施策・事業名（仮称）

新たな用途地域の指定変更

市街地及び郊外での商業施設立地のあり方の検討

都市計画道路の見直し検討

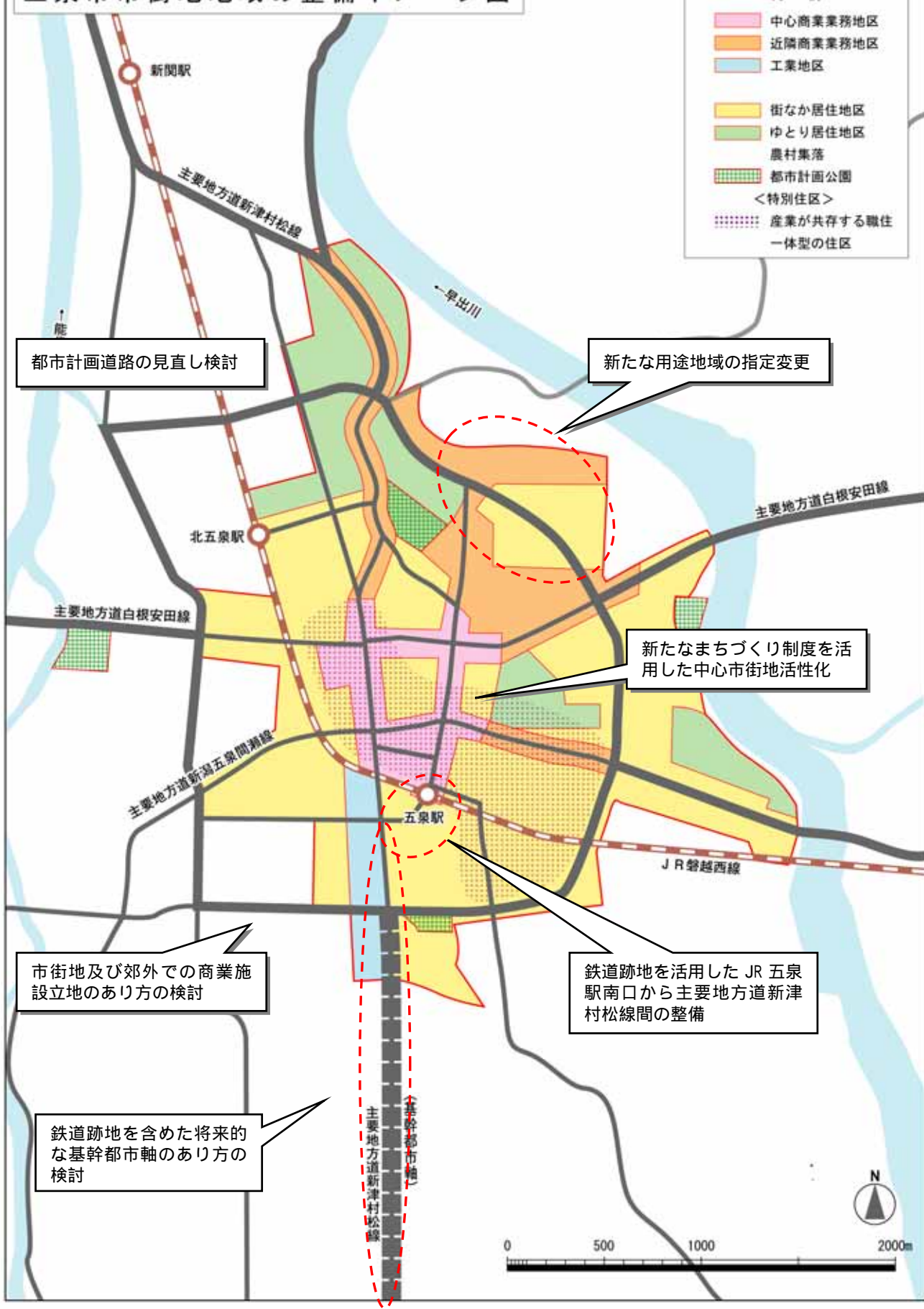
新たなまちづくり制度を活用した中心市街地活性化

鉄道跡地を活用したJR五泉駅南口から主要地方道新津村松線間の整備

鉄道跡地を含めた将来的な基幹都市軸のあり方の検討

五泉市市街地地域の整備イメージ図

- 凡例
- 中心商業業務地区
 - 近隣商業業務地区
 - 工業地区
 - 街なか居住地区
 - ゆとり居住地区
 - 農村集落
 - 都市計画公園
 - <特別住区>
 - 産業が共存する職住一体型の住区



都市計画道路の見直し検討

新たな用途地域の指定変更

新たなまちづくり制度を活用した中心市街地活性化

市街地及び郊外での商業施設立地のあり方の検討

鉄道跡地を活用した JR 五泉駅南口から主要地方道新津村松線間の整備

鉄道跡地を含めた将来的な基幹都市軸のあり方の検討



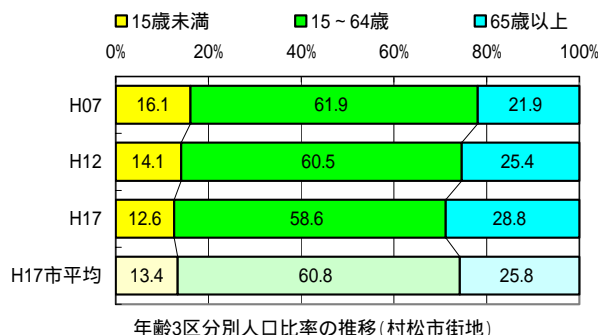
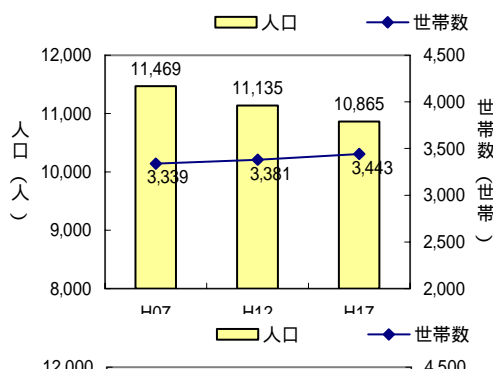
（3）「村松市街地」の地域別方針

1) 地域の位置づけ・特徴

城下町として街区形態や建物など、街並みに特徴を残す閑静な住宅地
 中心商店街は商店・飲食店が活気を残している
 既存の路線バス網廃止に応じた新たな公共交通サービスの構築が急務
 村松支所や図書館、病院、社会教育施設など、五泉地域と同等の公共公益サービス機能が集積

2) 人口特性・住民意識

人口は 11,000 人、世帯当たり約 3.2 人
 10 年間の人口増減率は-5.3%
 65 歳以上の人口割合は 29%
 「買い物」や「公共交通」へのニーズ



年齢3区分別人口比率の推移(村松市街地)

【求められている施策】

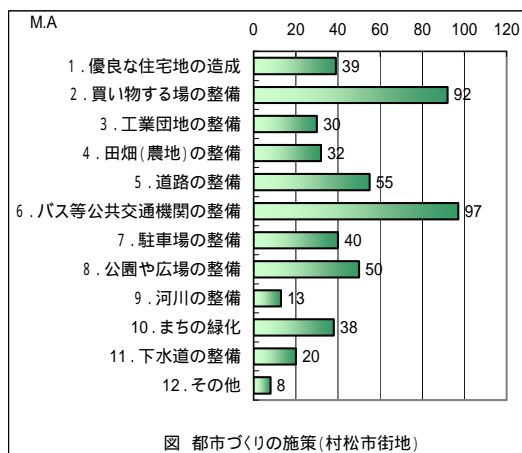


図 都市づくりの施策(村松市街地)

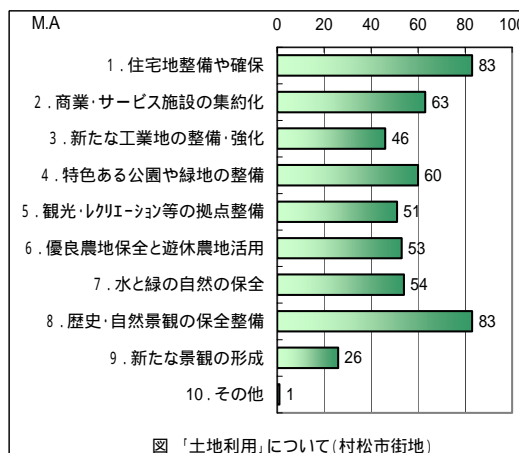


図 「土地利用」について(村松市街地)

3) 当面对応すべき課題

<都市の魅力向上>

城下町の歴史資源や街並みを活かした都市づくり

<街なかの再生>

商店街を中心とした中心商業の活性化

市街地内道路の安全対策（通過交通流入抑制など）

<移動環境の改善>

地域公共交通サービスの充実

未整備都市計画道路のあり方の検討

4) 地域づくり視点

視点 : 城下町の資源を活かした市街地活性化

視点 : 五泉市街地との連携強化

視点 : 閑静で良質な住環境の形成と定住化対策

5) 5つの戦略で掲げた方針の地域展開

【村松市街地の中心市街地活性化推進】

商店街周辺地区を対象として、まちづくり交付金等を活用した中心市街地の再生に向けた取組の推進（商業基盤施設の整備やイベントの開催、空き店舗の活用等による中心商業の活性化など）

【街なか居住の推進】

多様なニーズに対応した優良な住宅地の供給促進及び新たな定住促進方策

【城下町の街並み景観の形成】

杉ぐねや鈎^{かぎじょう}状の街路など、城下町固有の形態や様式を保全活用した個性ある市街地環境づくり

【公共交通の利便増進】

旧村松駅を結節点として、路線バス・コミュニティバス等の公共交通ネットワーク強化

による利便増進

【市街地内道路の計画的な整備】

長期未着手都市計画道路の廃止も視野に入れた計画見直し
市街地中心部を通過する交通の排除のための道路整備

【安心して歩ける歩行者空間の整備】

通学路や商店街・公共施設・公園周辺などにおける歩行空間整備及びバリアフリー対策
冬期降雪時の除雪を円滑にするための、道路幅員や沿道状況に応じた雪処理対策の推進

【基幹都市軸の機能強化】

五泉市街地と直結する主要地方道新津村松線の交通円滑化対策
鉄道跡地を含めた将来的な基幹都市軸のあり方の検討

<今後、先導的に取り組む施策・事業>

施策・事業名（仮称）

新たな用途地域の指定変更

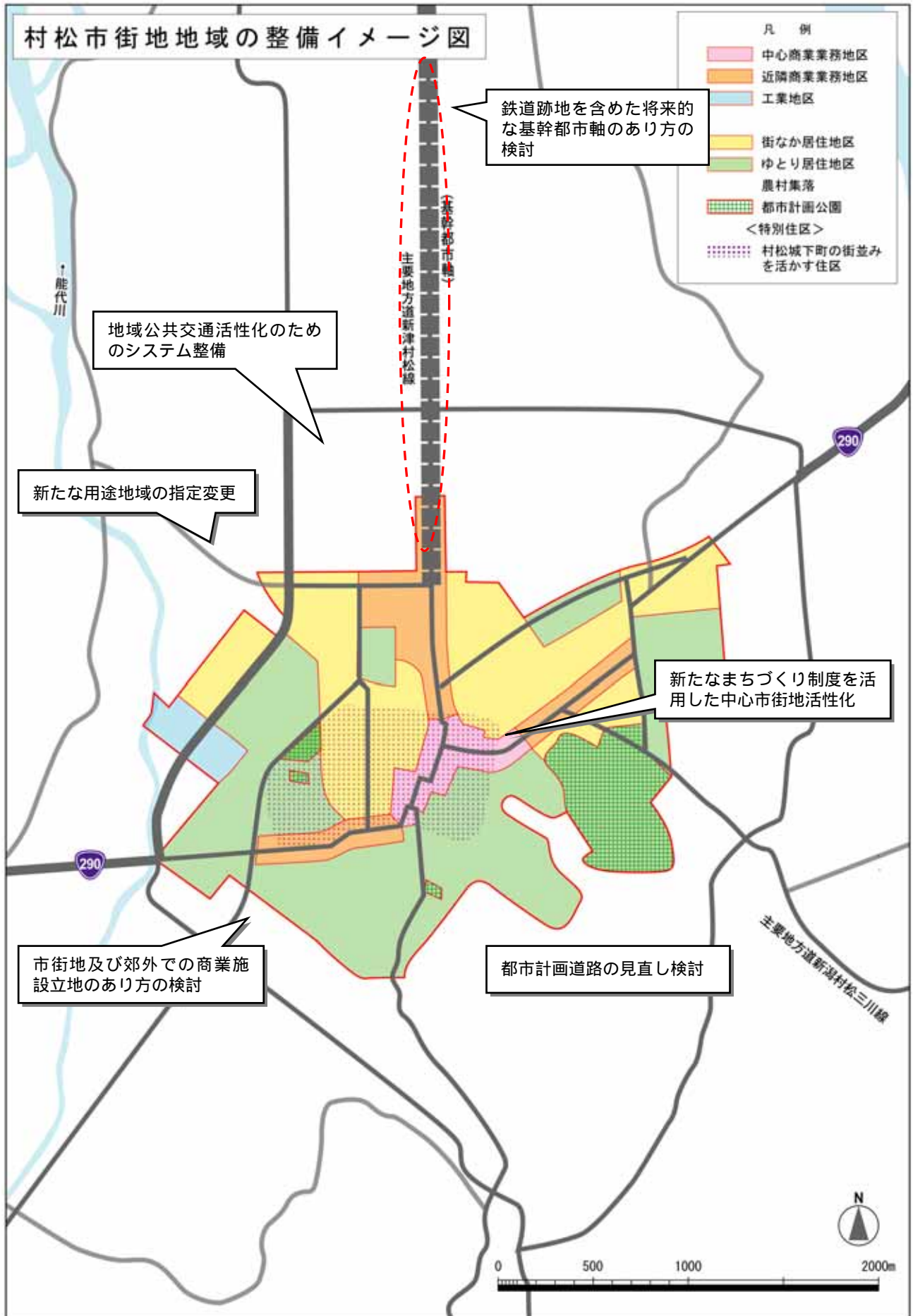
市街地及び郊外での商業施設立地のあり方の検討

都市計画道路の見直し検討

新たなまちづくり制度を活用した中心市街地活性化

鉄道跡地を含めた将来的な基幹都市軸のあり方の検討

地域公共交通活性化のためのシステム整備





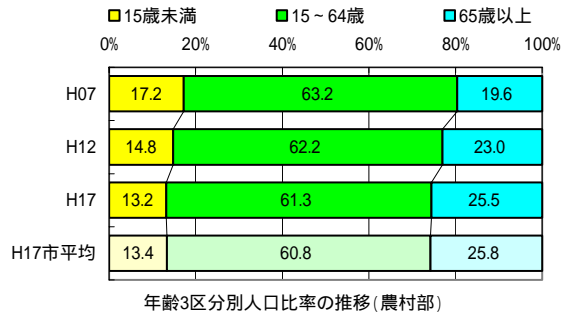
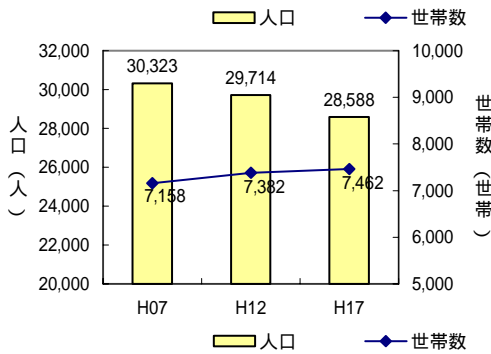
（4）「農村集落地域」の地域別方針

1）地域の位置づけ・特徴

- 大小規模の農村集落により構成
- 集落単位でのコミュニティは今なお強い
- 概ね小学校区（旧村単位）によって大まかな生活圏に区分
- 主要な集落には乗合バス等のルートが整備されているが全ての集落を周遊していない
- 都市的サービス機能は2つの市街地にほぼ依存
- 市街地に隣接する集落では、小規模な宅地開発が散見

2）人口特性・住民意識

- 人口は28,000人、世帯当たり約3.8人
- 10年間の人口増減率は-5.7%
- 65歳以上の人口割合は25%
- 「道路整備」や「公共交通」「買い物の場」へのニーズ



年齢3区分別人口比率の推移（農村部）

【求められている施策】

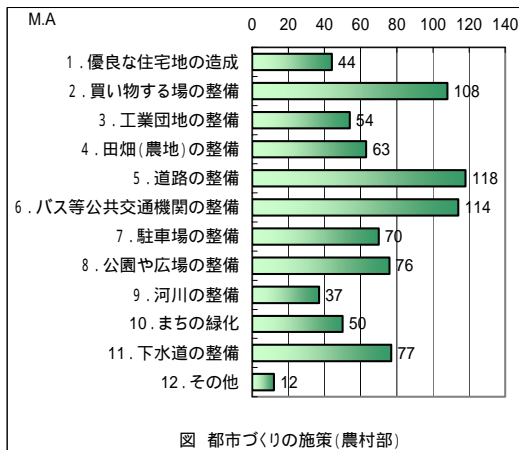


図 都市づくりの施策（農村部）

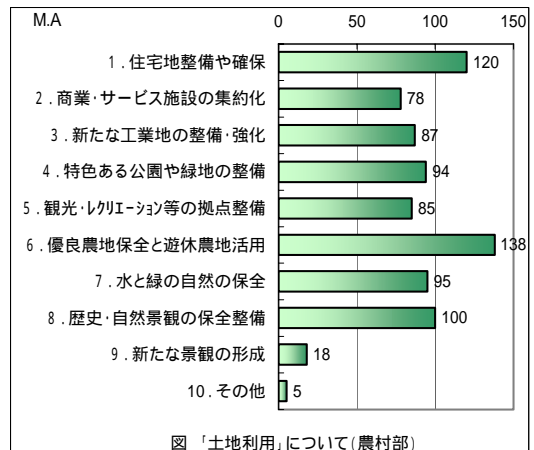


図 「土地利用」について（農村部）

3) 当面对応すべき課題

< 都市の魅力向上 >

田園や森林、河川等の自然的資源の保全と積極活用

< 農村集落環境の維持と保全 >

無秩序な市街化、大規模開発に対する土地利用調整
集落の活力維持に向けた環境対策

< 移動環境の改善 >

地域公共交通サービスの充実
集落間及び市街地を結ぶ道路の走行快適性や安全性確保

4) 地域づくりの視点

視点 : 市街地拡大のコントロールと集落活力維持のための対応

視点 : 都市サービス享受のための市街地への移動環境整備

視点 : 市街地や他都市との連携交流促進（都市の魅力向上に向けた役割強化）

5) 5つの戦略で掲げた方針の地域展開

【農地や森林等の保全】

優良農地の保全を原則とした都市的土地利用との調整
河川や森林の自然的資源の景観や機能の保全

【地域公共交通の整備充実】

地域の実態に即した新たな公共交通の整備
バスを主体とした、公共交通利用の拡大に向けたサービスの改善、市民へのPR

【集落活力の維持】

「農地・水・環境保全向上対策」等の取組継続による、集落活力の維持向上に向けた取組の推進
集落で行う共同作業の継続など、コミュニティが維持されるような仕組みや施策の検討

【市街地や他都市との連携】

地域の空き施設等の有効活用による市街地や他都市との交流機会の創出
既存の観光・レクリエーション資源のPRや誘導案内強化による交流人口拡大
農業体験や特産品販売所の整備充実等による農を活かした商業観光の推進

<今後、先導的に取り組む施策・事業>

施策・事業名（仮称）

用途地域指定変更に伴う農業振興地域整備計画との調整

市街地及び郊外での商業施設立地のあり方の検討（大規模商業開発の立地を抑制するための土地利用規制の検討）

農地・水・環境保全向上対策等を活用した集落活力維持の取組

地域公共交通活性化のためのシステム整備

農村地域の整備イメージ図

地区名	人口規模(住民基本台帳H20.7.)						高齢化率(国勢調査)		
	500人超	300~500	200~300	100~200	50~100	50人未満	H07	H12	H17
五泉	4	6	3	3	0	0	15.2	18.7	21.5
川東	2	5	6	7	4	1	21.3	23.9	26.5
橋田	1	1	5	4	2	1	20.8	23.6	26.0
巢本	2	0	4	2	0	0	20.4	25.9	28.6
大蒲原	0	0	7	8	2	0	21.2	25.0	27.8
十全	0	2	1	3	3	1	21.2	25.0	28.5
川内	0	1	2	4	8	3	23.5	27.2	29.0
菅名	0	1	2	4	0	0	20.7	24.2	25.7

- 凡例
- 農村集落地域
 - 自然環境保全・利用地域
 - 河川等
 - 郵便局
 - 小学校
 - 中学校
 - 基幹集落
 - 準基幹集落
 - 一般集落

※小学校及び郵便局が立地する集落群を基幹集落どちらか一方が立地する集落を準基幹集落とする

用途地域指定変更にもなう農業振興計画との調整

用途地域指定変更にもなう農業振興計画との調整

地域公共交通活性化のためのシステム整備

農地・水・環境保全向上対策等を活用した集落活力維持の取組

